

寛永諸家譜

清和源氏辛七冊之内
義光流之内小笠原

内閣文庫		
番號	和	20199
冊數	186 (48)	
函號	冊	76 1



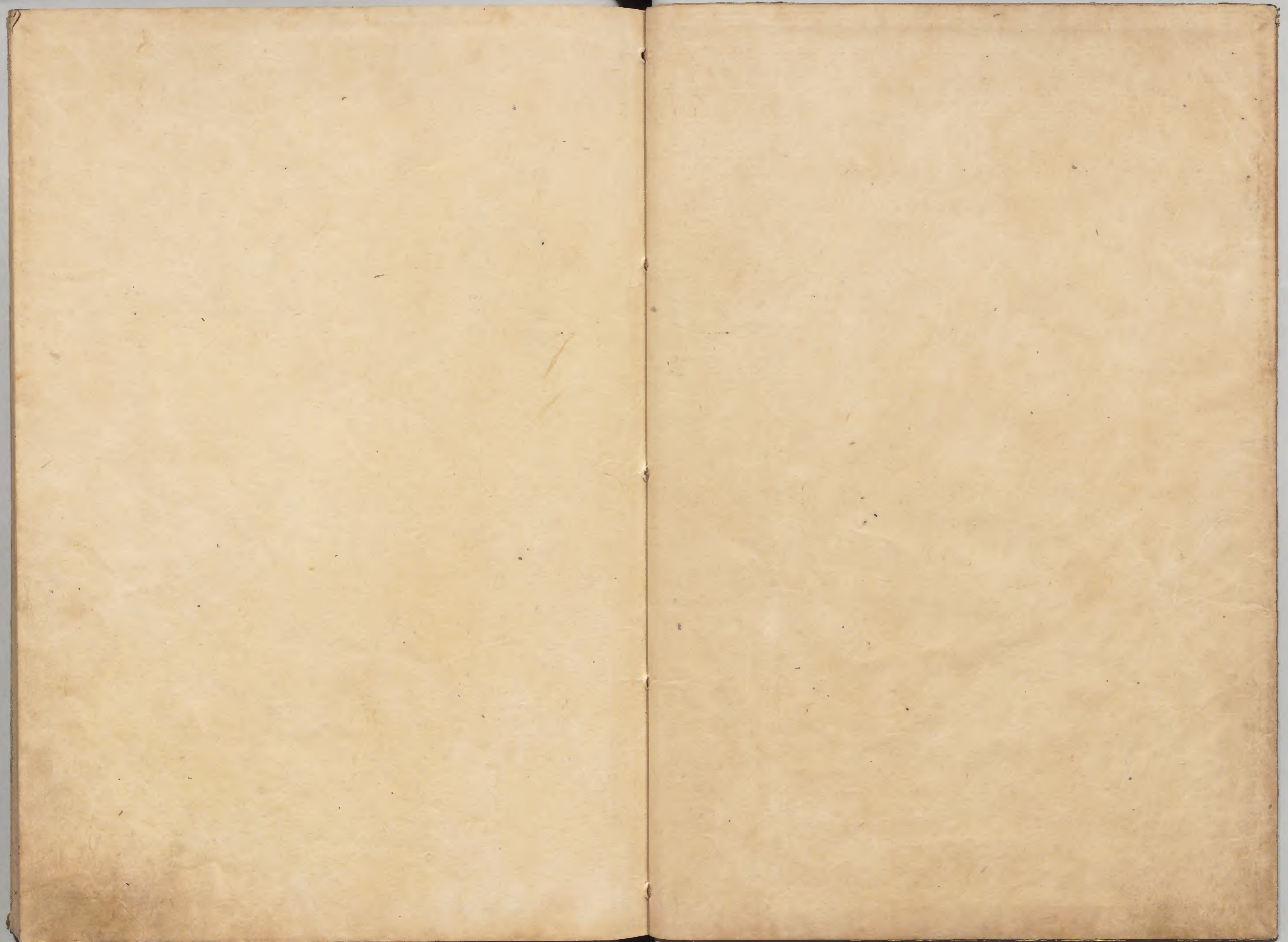
Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak





三好

林

上田

伴野

中鴻

赤越

丸茂

水部

寛永諸家系圖傳

清和源氏

辛四

義光流

三好

系

小笠原刑部

生必儀例

河波かまじき細川ほそがわ後ご波なみ等ら

清和



系

小笠原式部

後三好義家と

号す 生必田家 三好の惣領

三好隆理方丈が父なり

父刑部とおもひに波に赴き細川

隆政ちとてたふ先才田人徳家此児

隆徳中しかかろく教度忠節と

う守山の地へは列三好と忠貞

系

系右衛門

系

系次郎

こしへ領地とうく是より先才が

三好と稱す 法名喜運

今稱じろく小笠原に列しつる

年いさへ家傳いさへ是れ

号す

系

甚五郎 生必信州

栲州江口小かろく討死時、年十二歳

法名家三

系

下野守 法名釣閑

一任 まこと

因幡守 生必栲州 まこと

先下野守屋なほいこみとなりゆへ

下野守家督と云々

一任十六歳の時栲州より飯盛の城と

かこむはと死一任と部守湯川と云々

とくみうらしてうけ首と云々

後理左史が子孫を被文と云々

是と云持と云々後理左史死して

子孫系左史と信長と合戦一三好氏

かひく討死す一任ひとまかのまゝくは波しか
くは飛入りしと信長たつ子がい
よもたすふゆし一任とれより信長く
しるふ

元龜元年九月廿日信長より孫州
を諷那しかめく技持万とたまふ
うれ朱平介あかひらと是にり

秀吉薨去の後

東照大権現とうしょうと云人なり關東御發向

此より一任ひとまか嘉子かことよとばら方と云く
信長守

秀吉も子關原西陣と信長

大坂あまれ法陣と一任信長

大権現おほごんげん此始と一任ひとまかと河内かわちの薬心くすりこころと云る
魚いさなととく常つねと御ごああと作しして
ううののししと申まをす

慶長九年

大権現の命のみことよりより從五位下じゆごいげと叙さす

因幡守不任寸

大権現荒御の後

名法院教しは人なり常子御前ら

く候して御もると申さる

寛永八年十二月十日病死 法名

為三

可正

越後守 生公日家

大権現しは人なり兼地子石と領寸

納命しつくと御給仕者となら

夢長女子関ヶ原御陣と仕奉

同八年

大権現此納命せり御後立位下に

叙寸

大坂あ度の御陣と仕奉

寛永十一年七月五日病死

勝任

由あぢ 生か後

祖父一任が養子となりて家督と

しぐ後任

名法院教とあしけりけり養父一任

吉井大炊頭利衛とたのしく後任と

流五佐下と叙せん事とふけりて

利衛

名法院教と名と一けれが 始と一と

一任すてし年老らりてくは

しとすけりてふのしと仲好る

ととやり寛永七年十二月廿八日

任流五位下と叙す

勝正

猪と物 生國氏秀

先勝任祖父一任が建初とけりて

勝正庶子とらりとて一と家督とたる

家級
釘貫くぎぬき

三好

● 長直

伴賀古

生國河波

七房

備中守

生必同守

法石真儀

丹後守 後五位下 生國日家

三好山城守と属寸うけり信也は
久野庵草部等と征伐のし紀數度
軍忠とぬえんづも後秀吉と此久
使番とたり黄纒と介り朝鮮陣と
赴くも武勇はかまも色はけりしと

東照大権現きりりゆされ有馬中務

大権現とて房一と石がされけり
なと五年関が原陣と伏せり
我切らりこの地と

大権現の位と兼地とたまふと
領地とのうけしと命より房一
河内の内とせがもつくれり河内小
かたき二子三百石と兼地と給り
御相伴存とたり

後列しかたき病死けり六十一歳

法石道平

長連

備中守 後五位下 生國掾

法石道流

長直 十世家の内

大権現とある

享長五年關ヶ原御陣に侍

于石の御代と給り侍信らる

所より房一死して後遺跡二子三百

石と給り 名命よりして長連が領

地于石と直重小たまふ

同十九年大坂御陣に侍

後

名連院教に所人なり

直重

庄長 生必掾 法石常流

名流院教

將軍家ノ侍人ナリ

父名直死ノ後四領ト給リ直重ト
が御地ナリ才直次ト給ス

直次ナリ

物九郎 生必後州 法名道受ト

名流院教

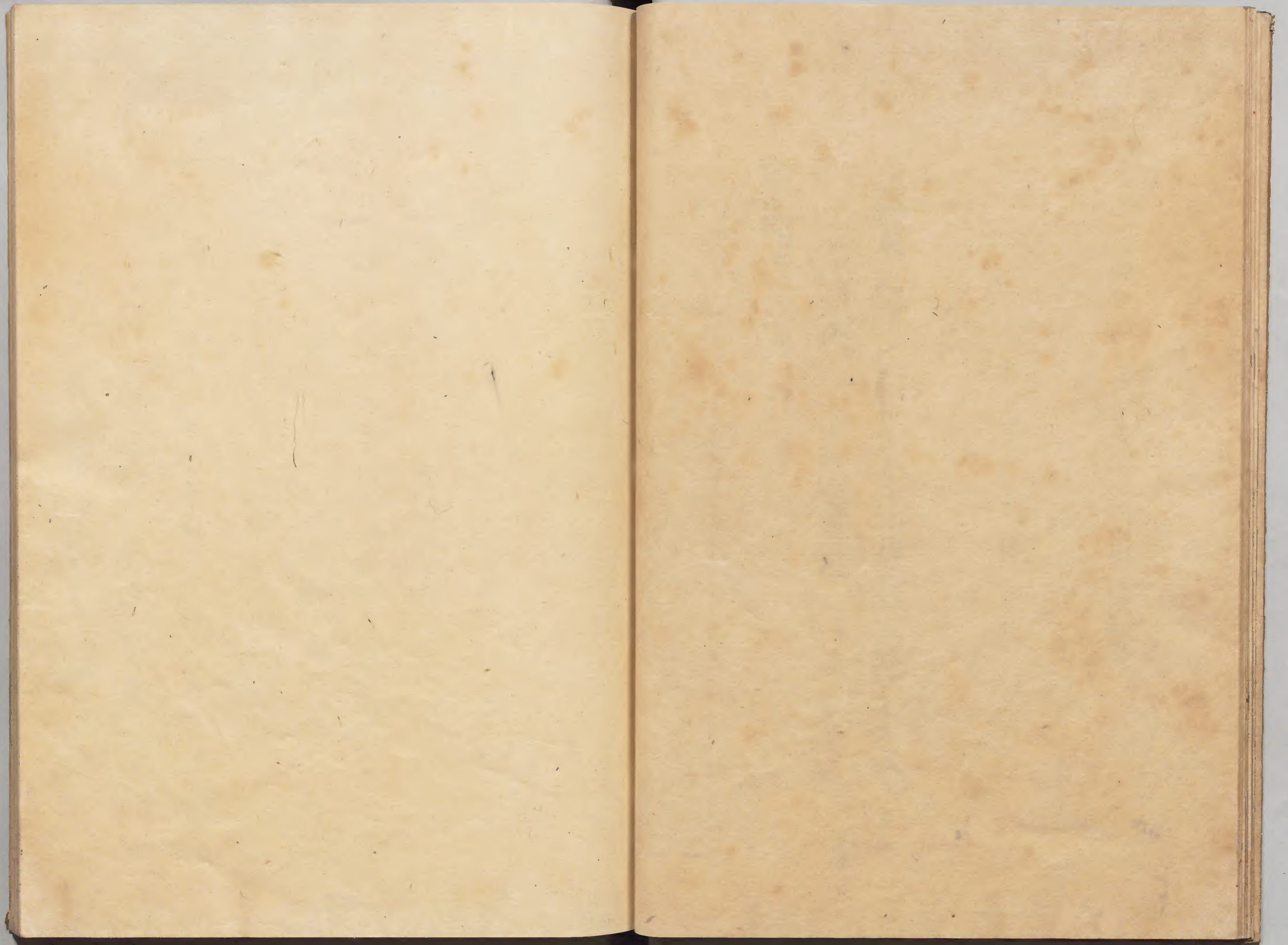
將軍家ノ侍人ナリ

直滋ナリ

虎ノ生必氏ト

將軍家ノ侍人ナリ直次ト造リ于スを
たリを

家紋 三舟字松皮釘貫ト



林

うのさびとらさ小笠原らあり見徳で任え列り

林られら綿めん一いち振ふ任にゆゆ林らとと孫そ号ごう寸すん

むむ親ちん氏し之しとと列り新しん田たよりより三さん列り

乃な松しょう平へいへへ神かみののかりかりのの内うち奉ほう任に列り林ら

歸かへしし水みづととりりしし付つとと林らのの系けいとと敏みん

りり御ご座ざととりりししれれ水みづ越こ年ねんののとと記き

正月しょうげつええ日ひしし林らのの系けい巻まれれ神かみ吸す物ぶつとと

をすそを造りこの今に教本
しかかくこそ名例とかふり親氏
之れ位より林の系三州松平
一筋と石筋の道後と法侍乃頭
と始付けらるるの四切より

東巡大権現の御代も又林乃子孫
毎多えはふ 御代へ石かされ御
盃と一番と下り志重が祖父を
志代よりかくれ

系

友物 生必三州

清廉君 廣志卿と代人なり

天文六壬 廣志卿と于松若とトな

ふともき友物為五人の者忠切なり

依く御代又下る

と夜入必く廣志卿と法若くは

田地万十五貫又宛つる御代也

於末代よりお遠小の御代

天文六年

十月廿二日 于松丸 御立判

八國是之矣

大窪新八郎

源次左衛門

大原直近

林友伸

系

友五郎

生必回矣

廣志彌

大隈親とありたり

二十五歳とて死す

忠政

友五郎

道新

生必回矣

大隈親へ侍人たりたり忠政十七歳

より眼病とありたり侍人たりたり

元和八年正月十日五十九歳
病死

忠志

友四郎 生必同家

名陸院教一侍人なり

元和八年正月十日大坂沙陣の討死を了
る本之水継とて二月廿九歳に
て討死 法名久露

重儀

中尾重儀 生必相掎

實ハ成濃五郎重儀の子なり林

道歌が養子とてなり林と

林号とす

將軍家へ侍なり

寛永十三年 病死 年三十

重信 ちかのぶ

五郎兵衛 生必同家

ちか 實ハ ちか 成五郎兵衛 ちか 重信 ちか 信 ちか 子 ちか たり ちか 叙文 ちか 重信 ちか 信 ちか 子 ちか たり

忠勝 ちか

六郎兵衛 生必同家

お軍家へりしつら

寛永十五年二月十日二條の御城

御番少く病死 法名宗善 ちか

忠重 ちか

六郎兵衛 生必同家

寛永十五年十二月二十七日

お軍家とありしつら

家紋丸の内 ちか 三巴 ちか 下に二又字 ちか



林もり

● 清重きよしげ

十善じゆぜん

生必三列なまかなみ

先祖せんぞ依よく

沖高おきたか家け一いちはは久く人ひと身みる

清衡きよこう

小石こいし

生必なまかなみ月つき安やす

東巡大控現り所り久き等らりて後ご作しり
丁て位ゑ康か之の小こ佐さ之の

清實きよひつ

牛古海うしふるみ 生必日命なまひつひのみこと

大控現りとも福ふ一いつ也や也や

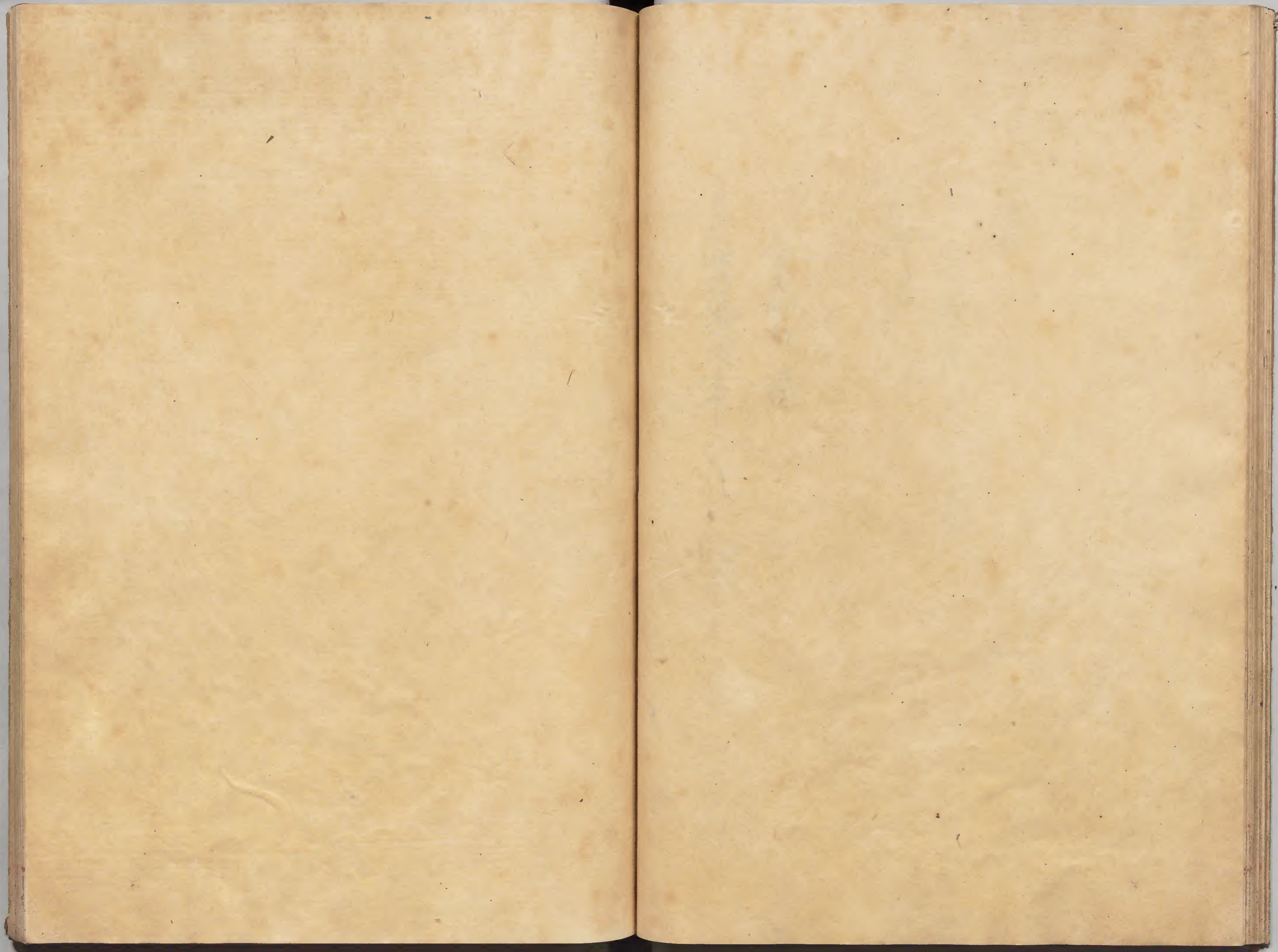
夢ゆめ也や也や小山陣こやまのちん関原陣せきはらのちん小佐也こさのち

元和二年

名漣院なれんいん教しよくく所しよ久く等らりて也や也や

寛永六年二月 鈎かぎ命のみこととりりて二ふた條じょう中ちゆう城じやう
少すく御ご鉄てつ炮ぱうとりりて也や

家紋いかり 左巴さ一文字いちもんじ



上田 えの

新田三郎義光あら末葉しんとして
小笠原の一族なり佐列 さと申す
佐寸是小さと申す孫まご號なづと寸

● 重氏 しげうぢ

孫右衛門 ひまの

生必尾列 なまひで

母はは五郎左衛門 い長考ながしと申す

重元

基右衛門
母羽長考にんのかげいでしはふ

重安

左左衛門 主水助 後五位下
利てい後ご一いちて宗園そうえんと号す
母羽長考はねながしはふ

天正十三年 長考死して後長尾重安
しはふしはふ考かう在ざい陪はい后ご敷しき人にんと号すと号すふの母
重安ちゆうあん考かうしはふ一いち越こ前ぜんせうらふせうらふ
是こゝ乃こゝ石いし地ちと願ねがふ

久祿三年七月廿九日 考后の姓とた
まがり 従五位下 小叙せうぎよし主水助しゆすいすけと号す
考かう長なが五ご年ねん後ご野の幸さち長ながしつしつと号すと号す紀き
州しゅうと号すと号す

元和元年 大坂 考乃時 叙考と泉

川櫻井をりしかわしくいみはるく軍え
切きりり、まに薩列し飛ひ任に寸

重秀しげひで

之この教よ助すけ

寛永九年三月

將軍家とありきり

同十二年二月廿日がきやものこり江州野洲郡小か

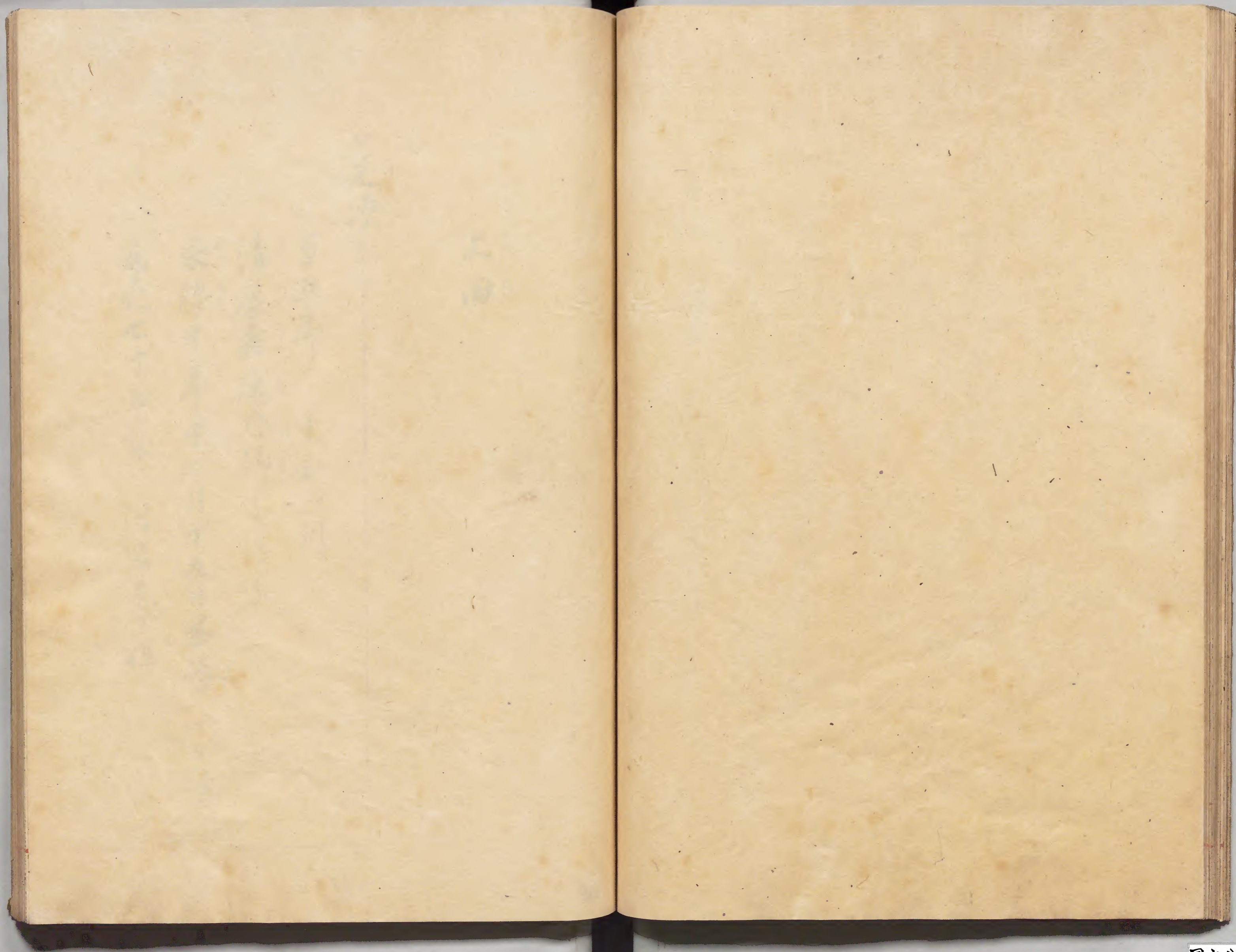
わくし又ま名なの地ちとあり候しと

重政しげまさ

細家

淺野あさの長晟ながあき同な光晟みつあきとあり

家紋釘貫くわいぬい



上田 えだ

● 元次 もとつぎ

万五郎 まんごろう 生必三列

清康若廣忠 きよかんながひろちか 歸 かへり

永祿十年十二月十九日 えいりくじゅうねんじふにがつじゅうくにち 是勝 こゝろ 小右 こゝろ 次

病死七十五家 やまひにしなせしなほ 法名 ほうな 孝 たかむね 禮 れい

之像

首庫

生國回舟

廣志弼

東照大権現

名酒院教とてふ

初め清康妻此才松平義人信孝

廣志弼とてしきく織田弾正忠一

与力とて三州甚誇しか張の時之像

子より信孝と討とる乞ふり三州大

漢しかわく領地と給つるその後

大権現信孝此じしものと之像と嫁せり

たきふ之像小男たるゆへ別三列河原

見村小く信孝じしものと領地とたきふ

時之像之命のうけけりしと

謝してしと信孝はしてし沖一族た

と志るにのじしものとゆるゆりあ

とゆるゆるし申しれ

大指現の物し、いつくえ後の敷代御家、
け久く石川安藝守が外孫なるゆへに
いかわく御ゆるをたてたまはる
なすともいふわゆるのらるゆへに
しるにともあはくしてはわすれぬ
わする
え後に存せし討しと死にたす
ふより幼少うたひし一是より
三州いかわく御城の番守番と勤め

いんがら
番頭とちり

同東御入世の後、いりて御城
守番守番と頭とちりせむら老
いかわく御ゆるとちりせむら
領の地とちり

享和十三年七月十二日、三州
いかわく病死、八十一歳、法石法心

元改

万五郎

長七十二年城州休久トウキウノ花々
二十九家

後勝トウキウ

法右衛門 生五三列

寛永九年四月十八日トウキウ後府トウキウ
花寸三十九家 法名トウキウ澤園トウキウ

勝正トウキウ

勘三郎 生四武彦

名徳院教

將軍家トウキウノ人々

元勝トウキウ

万五郎

名徳院教

將軍家トウキウノ人々

家トウキウ級トウキウ固心トウキウ吾トウキウ根トウキウ藤トウキウ



伴野とも

● 貞元まこと

刑部大納言

貞年まこと

相模守さまとり

貞儀まこと

美濃守

貞行

實心作

貞吉

能光守

明清寺と号す

信玄孫於父より信子

貞吉

駒馬守

金正寺と号す

信玄孫於父より信子

東照大権現に侍る

寛永五年奥羽御陣の時貞吉は

守寸と号しに又一方藩勅より

名陸院教御を爲貞吉とすいなり

約命より信列と田坂の御者

勤心

貞明 あきあき

まゝ

寛永十九年元和元年大坂陣小坂
多作後当正儀が紐なひに属まゐして
名徳院殿の儀なり

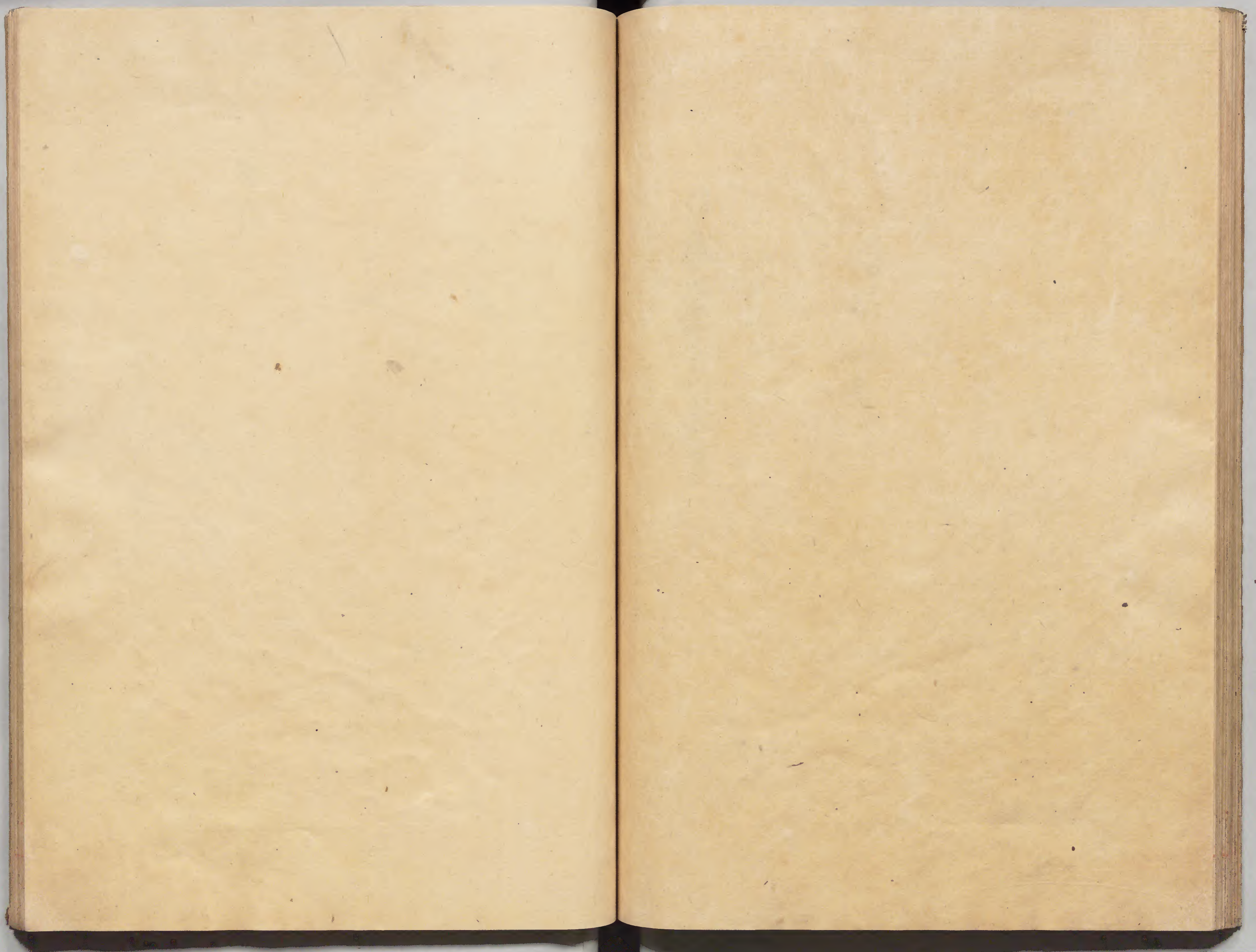
貞政 あきまさ

九上

寛永十三年

將軍家より侍なり

家紋 松皮菱 まきはし



● 盛儀

中鴻

中鴻 信州伴野六郎時名が末流
後、河内守と稱号す

筑後守

生必武列

小條氏並同陸奥守氏類し

年七十五小と病死 法名常覺

盛直 もりなほ

大秀 生國日家

小藤隆奥守氏らうおくし 輝小治人あきらひと 甲州新府陣かうしんぷじん

とく言名ことな 何りなに されされ ありあり されされ 小田原とおだわらと

甲州とかうしゅうと 何となにと 何となにと 何となにと 何となにと 何となにと

とく起請文おこしげもん といとい まま 信玄しんげん 此こゝ けけ 破やぶ と

うう づづ といとい たりたり たりたり 隆奥らうおく ちち 不ふ 見み せせ されされ へ

大おほい といとい たりたり びび すす れれ ばば 廢やぶ 美み とと してして 引

ゆりゆり 此こゝ 十じゅう 文ぶん 字じ のの 級きゅう 乃の 指さし 相あひ とと ささ びび く

天正十八年てんしょうじゅうはちねん 小田原おだわら 落城らくじやう のの 後ご 翌年よくねん

東遊大控とうゆうだいこう 規ぎ へへ せせ ぬぬ されされ ずず 子こ たりたり 奥列おくれつ

御陣ごじん のの 儀ぎ

受名うけな 五ご 色しき 関原せきわら 御陣ごじん 之の 儀ぎ

同十八年どうじゅうはちねん 病死びやうじ 六十むそく 歳さい 法名ほふな 常林じやうりん

信久 のぶひさ

五ご 色しき 儀ぎ 生國日家

名法院教へ所へんそそまつ

寛永九年六十二歳とて病死

正平

三太衛門 生必田家

元和八年

名法院教とありそ家

寛永元年

相軍家へりしつり

正徳

権左衛門 生必田家

寛永十三年

相軍家とありしつりまへ盤石まへよりまへ押せ

寛永甲州中野所次右衛門正定まへの嫡子まへ

正定まへの妻田後頼まへしけ人甲州落玄のまへ

たり

大権現へりかう家

寛永五年

名徳院教と相しや家同年六田御陣の

伏せし

大坂交度に御陣し伏せし軍すとつ

と心

寛永八年七十三歳し病死

盛昌

十右衛門 生必同家

大権現

名徳院教へ侍りしよりくうけら忠名辨

し侍りし

將軍家へ侍りしよりく御侍と勤心

八十七歳し病死 法名元燈

盛利

五郎右衛門 生必同家

寛永九年十一歳し

大控現しは人ふそまらる

日十五年

右徳院教とお湯と

元和元年大坂再礼の時に教依中と

紹く廣一城^よ中二の丸^まおあ^まく首二

うらとり軍^{ぐん}切と^きげと^ま守と^し後

右軍家とお^まあ^まあ

啓明

七^{しち}信^{しん}の 生^{なま}必^{かなら}同^{どう}家

寛永十三年

右軍家とお湯と^まあ^まあ

啓直

孫^{まご}玄^{げん}清

寛永十二年

右軍家^{ぐん}へ^ま右^{みぎ}お^まあ^まあ^ま御^ご者^ざと^し勤^{つと}む

家この
級り
九こ巴え
固た
扇ん

赤越あかこし

小笠原こしかげ末流すえりゅう先祖せんぞ佐川さがわ大井おおい
よりよりおおりり後ごにに出で羽は田た利り郡ぐん
赤越あかこし郷ごうにに移うつりりとと代しろにに任たづじじりり友とも
赤越あかこしとと孫まご号ごうとと寸すん

● 光重みつしげ

宮内少輔

生必羽川

天正十九年五月いん肥前ちくご名護屋
かめく三十一歳いん死す 法名存願いん

光隆こうたう

左近 生必同家

文長五年ぶんぎ関ヶ原せきがはらの付

東照大権現とうしょうへ光隆こうたうをいいい一族いっしゆ為下

かき色かきいろ京橋きやうはしかえのいも出陣いっしん必い庄内しやうない

にいきいといろいろいけいとい死い忠い節いといりいて

かきいろ常州じやうしゆ新方郡しんかたぐんのいらい新庄村しんしやうむらといおい飲いと

ういのいらい

名護院なごいん殿だんへいはい入いせいり

同十三年五月十日いん武列ぶれつしいかいめいく

二十九歳いん死す 法名いん信賢しんけん

光種こうしゆ

次右衛門 生必同家

寛永六年十二月廿七日いん初いんく

心
名徳院教とありけり
御書院番とあり

家級
松道菱

利勝りくちやう

五郎ごらう若流わくりゅう

生必せいひつ三州さんしゅう

● 七照ななてら

岩庫いわくら乾かん 生必せいひつ英流えいりゅう
織田おだ信長のぶなが 氏子うぢこ

丸茂まるも

小笠原おがさわらの末流すえりゅうなり

三列 是崎とら、かみかみ

東照大権現とらとありありなり

天正十八年 關東沙入とらの付伏とらして

御幕とらとありあり老後とらかびかびと後とら

持とらりあり

文祿六年 相州とら少とら病死とら内とら七十歳

法名 現雪とら

利久とら

目通とら 生玉田家とら

孝列とら 溪村とらかみかみ

大権現とらとありありなりあり

名権院とら教とらとありありなりあり大津藩とらの継とら

元和七年 池田とら三左衛門とら尉とら轉とら政とらとありあり

伴とら連とら越とら前とら志とら多とら人とら嫁とら娶とらのとら

名権院とら教とらのとら終とらとありありなりあり

てとら枝とら地とらとありありなりあり

寛永九年 病死 六十二歳

重成 しげなり

牛之物 生必同家

孝列 しほ 漢松 しほ かのり

大権現とありせり

寛永五年相列 まじり 少く病花 五十二歳

法名 えい 善清 ぜん

重親 しげちか

三戸 さん 尾 お 橋 はし 生必相列

寛永五年九月

名徳院教とありしは しほ 同 しほ 十六歳

同九年五月

為軍家とあり しほ 獨 ひとり たり大御番と勤む

利明 りみょう

五郎 ご 若 わ 湯射 ゆ 生必 しほ 長 なが 彦 ひこ

寛永八年十一月

名徳院教とあり しほ 獨 ひとり たり

同九年

將軍家より人なり大御番と勅じ

日十六日 約命より御膳の役と

つとむ

家紋 栞しり校がう

初級 しゅく

小笠原氏よりお

● 行忠 ゆきただ

越中

生必儀列

氏田儀云し属寸九十二歳し人死法名道和

勝忠 かつただ

越中

生國日記

仁玄にげんの書

天正九年三月廿八日六十三歳にじゅうさんさいの辰
玄げん 法名存龍しゆりゆう

昌志まさし

九郎右衛門 生必甲斐いっぺい

東照大権現とありし書

享長十一年十二月十二日死す年六十三
法名士龍しりゆう

幸次きんじ

九郎右衛門 生必同家

大権現

名法院殿へしるし書

享長十九年大坂御陣の内侍に仕
牧野まきののの家当かた 継ついでしし 属まかすす 聖よ子こ 御ご札は
いしきいのの松平まつだいら殿の中ちゆう当たう 継ついでしし 属まかすす
佐々守

昌^{まろ}車^{くるま}

平^{ひら}太^た丈^ぢ

生^{なま}必^{かならず}氏^{うぢ}務^む

乃^{なほ}軍^{ぐん}家^けへ^へは^はら^らへ^へし^しる

家^{いえ}級^{きゅう} 松^{まつ}皮^{かわ}菱^{びし}

● 重晟 あき

横田下野 よこた 生田野村
長田佐虎 ながた 佐久

次郎 じろ

うたせの横田 よこた と長寸重政代 あき 一 いち
子 こ 次郎 じろ と改口孫 まご と

重政 しげまさ

九郎三郎

右衛門

生目甲斐

信玄しげひら侍さむらい於お父ちち子こにに侍さむらいす

信玄しげひら侍さむらい於お父ちち子こにに侍さむらいす

信玄しげひら侍さむらい於お父ちち子こにに侍さむらいす

とゆらさき軍中の使者ついでんより

天正三乙巳藤とうしかわく討死うちころしす

正次 しげつぐ

後右衛門

生目甲斐

天正十年甲州御入参ごにんさんの時

東照大権現とうしょうだいこんげんとありせむ

安永やすなが乙未おつみ年関せきが系陣けいじんの時正次しげつぐ侍さむらいす

同十七年病死りやうし年三十九没名なな休園きゅうえん

重貞 しげさだ

茂兵衛

生目甲斐

元和二年

名迹院なせきいん叙しよしけんをりそのら

乃軍家ノ所ノ人ナリ

重作まろ

三品若清

生必日安

元和五年

右近院殿

乃軍家ノ所ノ人ナリ

家級下しきり膨ふくらみ松皮まつかわ菱ひし

● 系

羽取^カ

小笠原の末流上野原系^カに
羽取^カに付く

伊賀守 生必甲斐

長田信虎 行公 父子^カとて久しく甲州

の月山宮村 子塚村 中村 羽黒村 湯村

長川村 龜嶽村 七呂寺村 七場村 等

と領^りど、 法名^{えん}攀^{けい}桂

勝^り資^{しき}

大炊^{おほい}助^{すけ} 尾張^{おわり}守^{まも} 生^{なま}必^{かな}日^ひ分^{ぶん}

信^{のぶ}玄^{げん}務^む頼^{のり} 父^{ちち}子^こ、^ふ此^{こゝ}子^こ、^{ちち}父^{ちち}伴^{ばん}賀^が与^よ、^り領^り
地^ちと給^{たま}り、^{ちち}其^{その}外^{ほか}任^{にん}列^{りつ}、^{ちち}其^{その}方^{かた}と給^{たま}り、^{ちち}数^{かず}ヶ
所^{ところ}の地^ちと給^{たま}り、^{ちち}甲^か列^{りつ}一^{いつ}乱^{らん}乃^のととこ
討^う死^し 法^{はふ}名^な天^{てん}祐^{ゆう}

系

又^{また}其^{その}弟^{てい} 氏^{うぢ}部^べ 生^{なま}必^{かな}日^ひ分^{ぶん}

初^{はつ}初^{はつ}刑^{けい}部^べが^が普^ふ父^ふ

信^{のぶ}玄^{げん}務^む頼^{のり}、^{ちち}此^{こゝ}子^こ、^{ちち}甲^か列^{りつ}一^{いつ}乱^{らん}の^の後^{あと}

大^{だい}権^{けん}規^き、^{ちち}其^{その}外^{ほか}任^{にん}列^{りつ}、^{ちち}其^{その}方^{かた}と給^{たま}り、^{ちち}数^{かず}ヶ
所^{ところ}の地^ちと給^{たま}り、^{ちち}甲^か列^{りつ}一^{いつ}乱^{らん}の^の後^{あと}

、^{ちち}其^{その}外^{ほか}任^{にん}列^{りつ}、^{ちち}其^{その}方^{かた}と給^{たま}り、^{ちち}数^{かず}ヶ
所^{ところ}の地^ちと給^{たま}り、^{ちち}甲^か列^{りつ}一^{いつ}乱^{らん}の^の後^{あと}

法^{はふ}名^な古^こ岩^{いわ}

信^{のぶ}業^{なり}

又^{また}八^{はち}郎^{らう} 後^{あと}、^{ちち}和^わ田^{でん}と^と孫^{そん}と
其^{その}清^{せい}重^{ちゆう}

生國日か
信玄勝於父子ふし
為之野和田の城の和田の益壽の女の娘
一人有り時と信業のと河の長の家督
と信玄のの地の和田の益壽の女の娘
甲州没落乃後小條氏並り一属と
元和三年九月廿九日辛丑十八死寸
法名日山

系

又七郎 大炊助 生國日か
信玄勝於父子ふし甲州没落
の後
大権現へ石かくれと総の必りお力を
藤子村 長尾村 太成村 祇園村 翠
作村 惣利村の領地と併成と
法名一溪

業保

又八郎

幼少乃内艾^{いみ}信業^{のぶ}が^ら花^{はな}玄^{げん}以^も以^も刑^{けい}部^ぶ
厨^{かど}ち^ちい^いく^く才^{さい}と^とち^ちる

寛永十年十月二日

為軍家とあ^あり^りたり

同六年^{いん}納^{のう}命^{めい}より^{より}御^{おん}小^こ姓^{せい}組^{ぐみ}乃^の

御番と勤^{いそ}じ

同八年^{いん}依^よ地^ぢと^と給^{たま}ふ

同十年^{いん}御^{おん}加^か増^{ぞう}お^お依^より^り御^{おん}書^{しよ}院^{いん}番^{ばん}
と^とち^ちる

家^け級^{きゅう}

松皮^{まつかわ}菱^{びし}

